

第 60 回東葛しぜん研修会

多様なキノコを探そう

米澤裕子（船橋市）

日 時：10月 16日（土） 9時30分～13時 天気：曇りのち晴

場 所：こんぶくろ池自然博物公園（柏市）

参加者：会員 15名 協議会 1名 他 2名 こんぶくろ池調査隊の方 10名

講 師：大作晃一氏

朝方の雨が上がり、むし暑い曇り空です。足元が悪いかと思い、家から長靴で出かけました。「こんぶくろ池博物公園」には「NPO 法人こんぶくろ池自然の森」の方々が公園の管理・運営業務を受託して活動されています。管理棟の前の広場には木製のテーブルとイスが設置されていてとても感じの良いスペースになっています。

9時30分頃から、こんぶくろ池自然の森の大貫さんから活動の状況の説明がありました。約 18.5ha の広いエリアと豊かな湧水の森の保全はなかなか大変そうです。

次に、講師の大作先生からキノコについて話がありました。キノコはカビと同じ菌類で胞子を電子顕微鏡、DNA の分析から分類していくこと、素人には難しいと思いました。また、今年はキノコが少ないようでと危惧されましたが、10時ごろから森に入ると、カラカサダケ、ムジナダケ、オニタケ、ヒトヨタケなど続々見つかりました。それも幼菌、成菌などいろいろなキノコが見つかりました。湿った森の中では長靴で来たのは正解でした。森の中を一列で歩いて行きますので、キノコを見つけた人から「先生」とお呼びが掛かり、先生は呼ばれた所へ行き説明します。皆さんの質問はまずは「これは何ですか？」、次の質問は必ず「これは食べられますか？」でした。皆さん食いしん坊ですね？

2時間ほど森の中を回って広場に戻りました。広場に白い紙が貼ってあるシートに胞子の色で分類して、採取したキノコ 30 数種を並べていきます。それらを大作先生は解説していきます。ニガクリタケは少しかじって苦味を体験します。もちろんすぐペッと吐きだします。スッポンダケは臭いを嗅ぎます。いやな臭いです。チチタケは押して液が出るのを見ます。13時頃、興味ある話が終了しました。私は真っ白い卵のようなきれいなスッポンタケに感動していました。世話をなった大作先生、こんぶくろ池自然の森の方々に感謝申し上げます。午後はきれいに晴れ渡った中を長靴で帰りました。

キノコ：アセタケの仲間、アルニコーラ、イッポンシメジの仲間、エリマキツチグリ、オチバタケの仲間、オニタケ、カラカサタケ、カワラタケ、キツネノカラカサの仲間、キツネノタイマツ、クサウラベニタケ、クヌギタケの仲間、コトヒラテングタケ、コフキサルノコシカケ、コムラサキシメジ、スギエダタケ、スギタケの仲間、スッポンタケ、タマゴタケモドキ、チチタケの仲間、ツエタケ、テングタケの仲間、ドウシンタケ、ニガクリタケ、ノウタケ、ハタケシメジ、ヒトヨタケ、ベニタケの仲間、ヘビキノコモドキ、ホコリタケ、ムジナタケ、ワカクサタケの仲間



キノコ採取中